



## 今週の T2 経済レポート

2020 年 4 月 24 日号

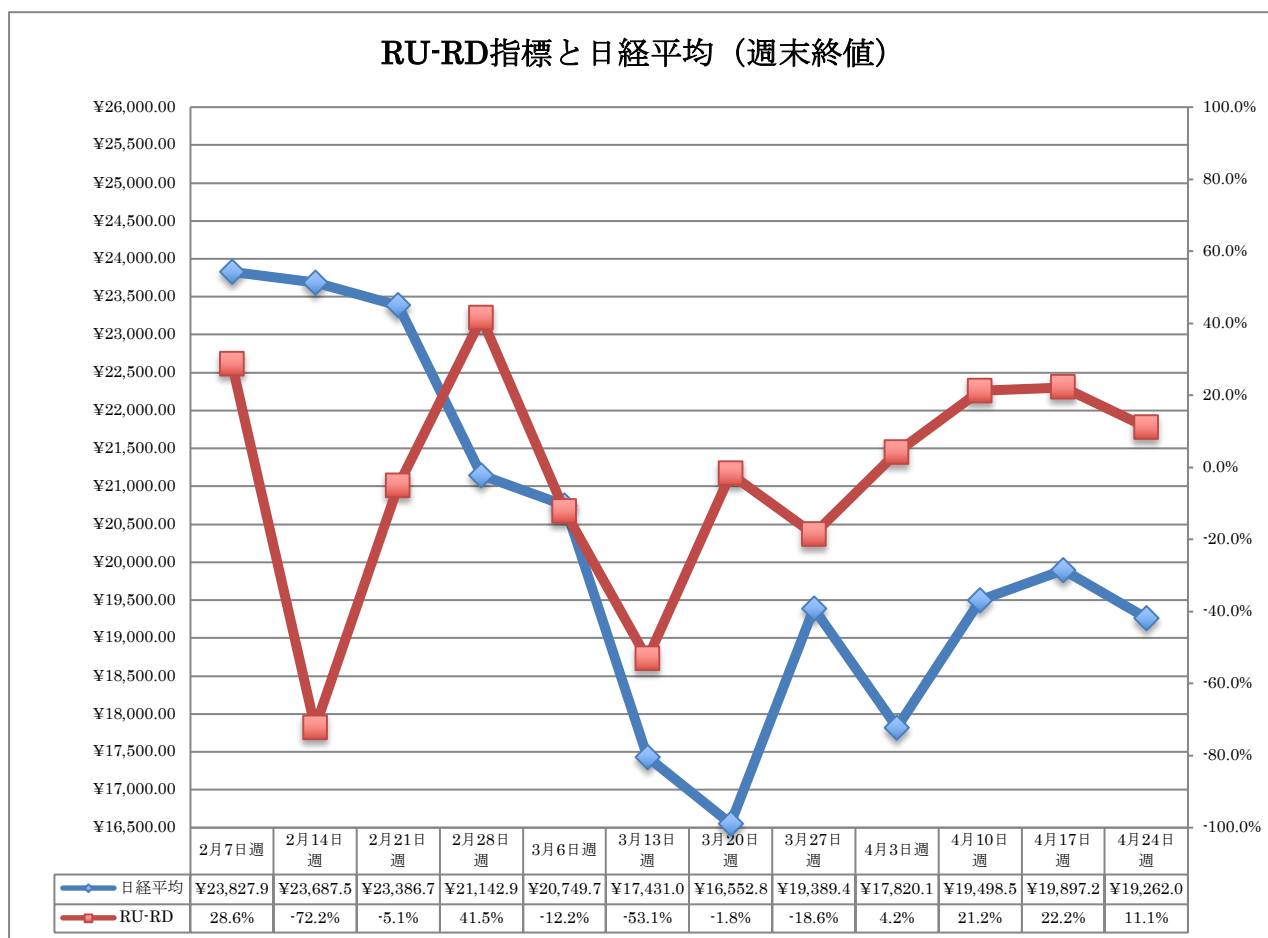
### ■■■ 市場ウオッチ ■■■

#### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場がさらに継続することが期待できる週となりそうです。今週(4/20~4/24)の相場を占う『RU-RD 指標』は 4 月 10 日週が+11.1%と 4 週連続のプラス圏となったことで堅調相場がさらに継続することが期待できる週です。さらに、来週(4/27~5/1)の相場を占う 4 月 17 日週が+50.0%と 5 週連続のプラス圏となったことでさらに堅調相場が継続するかたちです。5 週連続のプラス圏は昨年 8 月 12 日週~9 月 9 日週の 5 週連続プラス圏以来。前回の 5 週連続プラス圏は 19 年末まで株価が約 2 割上昇する起点となりましたが、今回も同様のシグナルになるかが注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング 1 と 2)」「売り(レーティング 3 と 4)」銘柄比率』は 2 度の 5 週連続での上限ゾーンを突破後、1 月 31 日週-18.6%→2 月 7 日週-30.0%→2 月 14 日週-11.4%→2 月 21 日週-14.3%→2 月 28 日週-71.4%→3 月 6 日週-80.0%→3 月 13 日週-91.4%→3 月 20 日週-92.9%→3 月 27 日週-90.0%→4 月 3 日週-85.7%→4 月 10 日週-85.7%→4 月 17 日週-82.9%と推移し、12 週連続マイナス圏、かつ 19 年 5 月 13 日週~6 月 10 日週以来となる下限ゾーンの-40%超に 8 週連続で陥っています。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の 16 年 1 月 18 日週以来ですが、-90%超となったのは 2009 年 9 月の「T2」開発以来初めての極めて稀な現象。それが 3 週連続-90%超継続していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。僅かながらですが 3 週連続で-80%台にマイナス幅が縮小してること底入れの兆しが出てきていますが、-40%を割り込んでくると本格的な反発が始まりそうです。

今週は、経済指標では、国内は、20 日に 3 月貿易統計、3 月コンビニエンスストア売上高、24 日に 3 月全国消費者物価指数、一方、海外は、20 日に米 3 月シカゴ連銀全米活動指数、22 日に米 2 月 FHFA 住宅価格指数、週次新規失業保険申請件数、23 日に 4 月マークイット製造業 PMI、米 3 月新築住宅販売件数、24 日に米 3 月耐久財受注が予定されています。23 日発表の米マークイット 4 月製造業 PMI は 38.5 と、3 月の 48.5 を大幅に下回る見込みです。また、24 日発表の米 3 月耐

久財受注も前月比-10.0%と、前回の+1.2%から大幅な悪化が予想されています。」とコメントしました。



4月3日週	4月10日週	4月17日週	4月24日週
¥17,820.19	¥19,498.50	¥19,897.26	¥19,262.00
4.2%	21.2%	22.2%	11.1%

先週の日経平均は、高値 19784 円(4月20日)・安値 18858 円(4月22日)と推移、3週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、原油先物価格が史上初めてマイナスとなったことをネガティブ視、また北朝鮮・金正恩委員長の健康問題報道などが懸念され下値目標値に迫る 19000 円割れとなりましたが、「日本銀行は4月27日開催の金融政策決定会合で無制限の国債購入などの追加緩和について協議する」との一部報道や原油価格が反発したことで、週間ベースで-635 円安と3週ぶりのマイナスに転じたものの 19000 円台を回復して終了しています(先週予告していた上値メド 20475 円~20884 円(+2%かい離)//下値メド 18689 円~18315 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、猶予で8日までに19500 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。20000 円大台替えで仕切り直し、逆

に、18500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、3 月 26 日までに 20000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。20000 円大台替えで仕切り直し、逆に、17000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、時間切れで、20000 円大台替えで仕切り直し、17000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期→となり、方向感がなくなり、乱高下しやすいかたちになりましたが、節目の 20000 円大台替えで本格的な反発局面に入るかたちです。

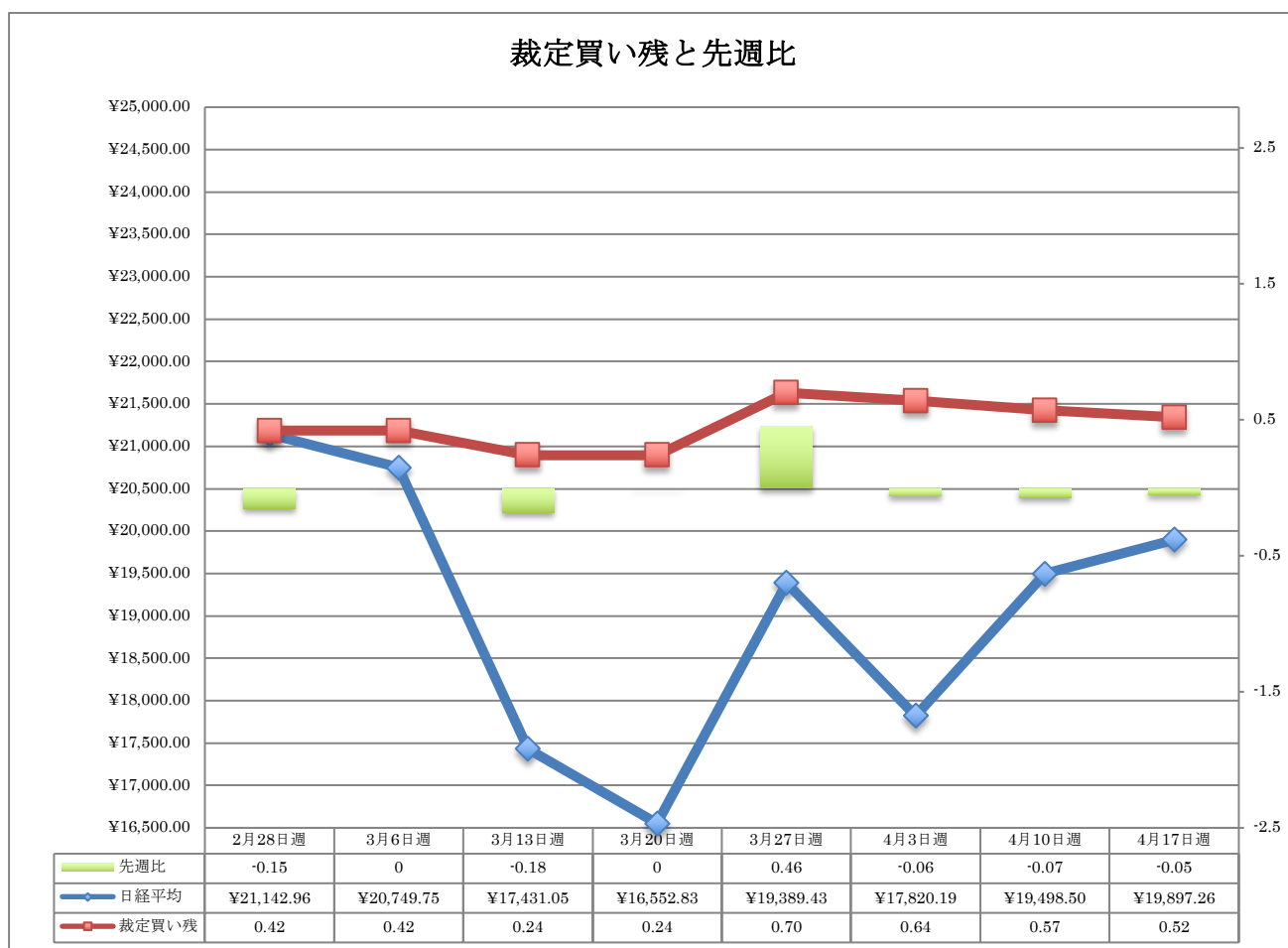
日経平均を左右するNYダウは、高値 24108ドル(4月20日)・安値 22941ドル(4月21日)と推移、3 週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、NY 原油先物の暴落(5 月限の清算値は史上初のマイナス値記録)や米国の 4 月製造業 PMI 速報値が過去最低を記録、さらに新規失業保険申請件数が 5 週間の合計で約 2650 万件に達したことで下値目標値を達成しましたが、4 月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値が上方修正されたことやフロリダ州、ミシシッピ州、アラバマ州、ジョージア州、サウスカロライナ州、テネシー州の 6 州で 24 日から経済活動を一部再開したことを好感、週間ベースでは-467ドル安と 3 週間振りに反落しましたが 23000ドル台を回復して終了しています(先週予告していた上値メド 25475 ドル～25984 ドル(+2%かい離)//下値メド 23254 ドル～22788 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、4 月 10 日(休場のため猶予で週明け 13 日)までに 24500ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せずに時間切れ。24500ドル大台替えで仕切り直し、逆に、22500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、4 月 8 日までに 24000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、実現せずに時間切れ。25000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、22000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、4月に22000ドル大台替えで仕切り直しが入り、同時に、23000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入り、更に、24000ドル大台替えでカウントダウン継続に 0 ヶ月、従って、4 月中に 25000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、23000ドル大台割れで下落スタートとなりました。22000ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、24000ドル大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期→、中期→、長期↓、となり、目先は方向感がなくなり、乱高下しやすいかたちは変わりませんが、暴落からの反発局面が一旦、終了が見え始めています。

一方、為替は、ドル・円が 108.03 円～107.26 円(先週予告していた上値メド 108.98 円～110.06 円(+1%かい離)//下値メド 107.47 円～106.39 円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し実質 4 週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.0896～1.0725(先週予告していた上値メド 1.0994～1.1103(+1%かい離)//下値メド 1.0714～1.0606(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週が 3 週連続で継続していますが、実質 4 週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、117.27 円～115.51 円(先週予告していた上値メド 119.01 円～120.20 円(+1%かい離)//下値メド 119.09 円～117.89 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を下回る実質 4 週連続の円

高・ユーロ安。前の週の円>ユーロ>ドルが実質 4 週連続で続いたかたちです。米国の 4 月製造業 PMI 速報値が過去最低を記録、さらに新規失業保険申請件数が 5 週間の合計で約 2650 万件に達する一方、フロリダ州、ミシシッピ州、アラバマ州、ジョージア州、サウスカロライナ州、テネシー州の 6 州で 24 日から経済活動を一部再開したことで方向感のない中途半端な週が続いたかたちです。

## <裁定買い残>

3週連続で減少、3月23日週に昨年3月以来となる4000億円台の急増で、一時、1月以来の7000億円台に回復しましたが、現在はその反動減の動きかと思われます。過去の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000円億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。逆に、「裁定売り残」は、前の週比+3418億円の2兆3584億円と2週連続で急増しており、日経平均がなかなか2万円大台替えが実現しない原因となっています。



	3月27日週	4月3日週	4月10日週	4月17日週
日経平均	¥19,389.43	¥17,820.19	¥19,498.50	¥19,897.26
裁定買い残	0.7	0.64	0.57	0.52
先週比	0.46	-0.06	-0.07	-0.05

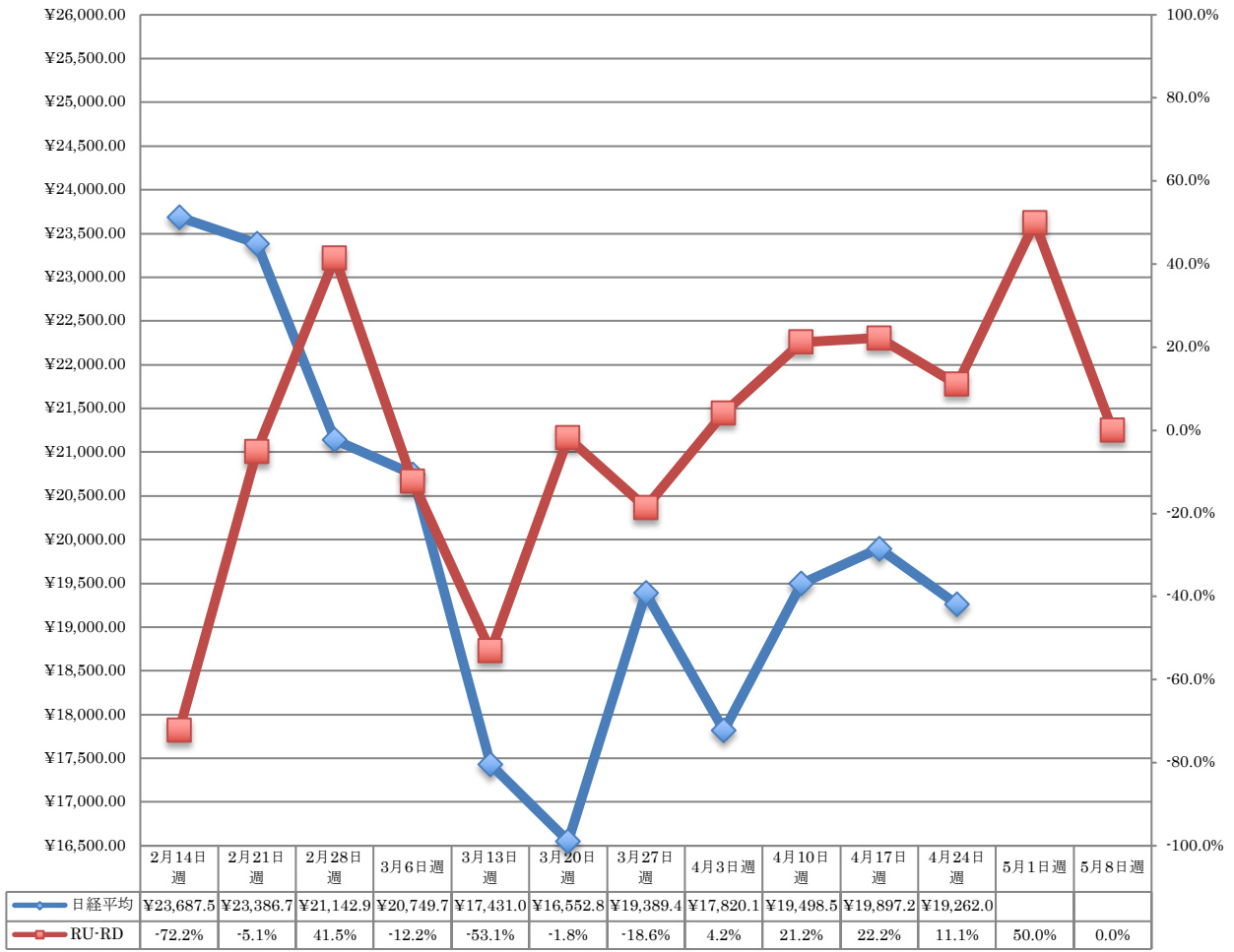
単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は堅調相場がさらに継続することが期待できる週となりそうです。今週(4/27~5/1)の相場を占う『RU-RD 指標』は4月17日週が+50.0%と5週連続のプラス圏となったことでさらに堅調相場が継続するかたちです。5週連続のプラス圏は昨年8月12日週~9月9日週以来。昨年の5週連続プラス圏は19年末まで株価が約2割上昇する起点となりましたが、今回も同様のシグナルになるかが注目されます。さらに、来週(5/4~5/8)の相場を占う4月24日週が0.0%とニュートラルとなりましたが、0%を含む6週連続プラス圏は2010年3月8日週~4月12日週、2012年1月23日週~2月27日週の過去2度しかない稀な現象。過去2回はその後、一旦、調整するシグナルとなっており、今回も調整には注意が必要となりそうです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%→4月17日週-82.9%→4月24日週-84.3%と13週連続マイナス圏、かつ19年5月13日週~6月10日週以来となる下限ゾーンの-40%超に9週連続で陥っています。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来で、特に、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めて。そのような稀な3週連続-90%超を記録していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。僅かながらですが4週連続で-80%台にマイナス幅が縮小してること底入れの兆しが出てきていますが、本格的な反発は-40%を割り込んでからとなりそうです。

今週は、経済指標では、国内は、28日に3月失業率・有効求人倍率、30日に3月鉱工業生産、4月消費動向調査、海外は、28日に米4月CB消費者信頼感指数、29日に米1-3月期GDP、30日に中国4月製造業PMI、ユーロ圏1-3月期GDP、1日に米4月ISM製造業景況指数が予定されています。4月29日発表の米1-3月期国内総生産(GDP)速報値は新型コロナウイルスの影響でパウエルFRB議長が言及した景気後退(リセッション)入りは確実視されていますが、どの程度まで減速するか注目。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、27日に日銀金融政策決定会合、一方、海外では、28日にFOMC(29日まで)、30日にECB定例理事会、1日に中国労働節休暇(5日まで)、ですが、やはり注目は新型コロナウイルスへの対応策として積極的な緩和姿勢を強調することが予想される日米欧の金融政策会合です。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



4月17日週	4月24日週	5月1日週	5月8日週
¥19,897.26	¥19,262.00		
22.20%	11.10%	50.00%	0.00%

## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 20450 円～20859 円 (+2%かい離)

下値メモ 19076 円～18885 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 24890 ドル～25387 ドル (+2%かい離)

下値メモ 23067 ドル～22836 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 107.82 円～108.89 円 (+1%かい離)

下値メモ 106.43 円～104.94 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.0923～1.1032 (+1%かい離)

下値メモ 1.0737～1.0629 (-1%かい離)

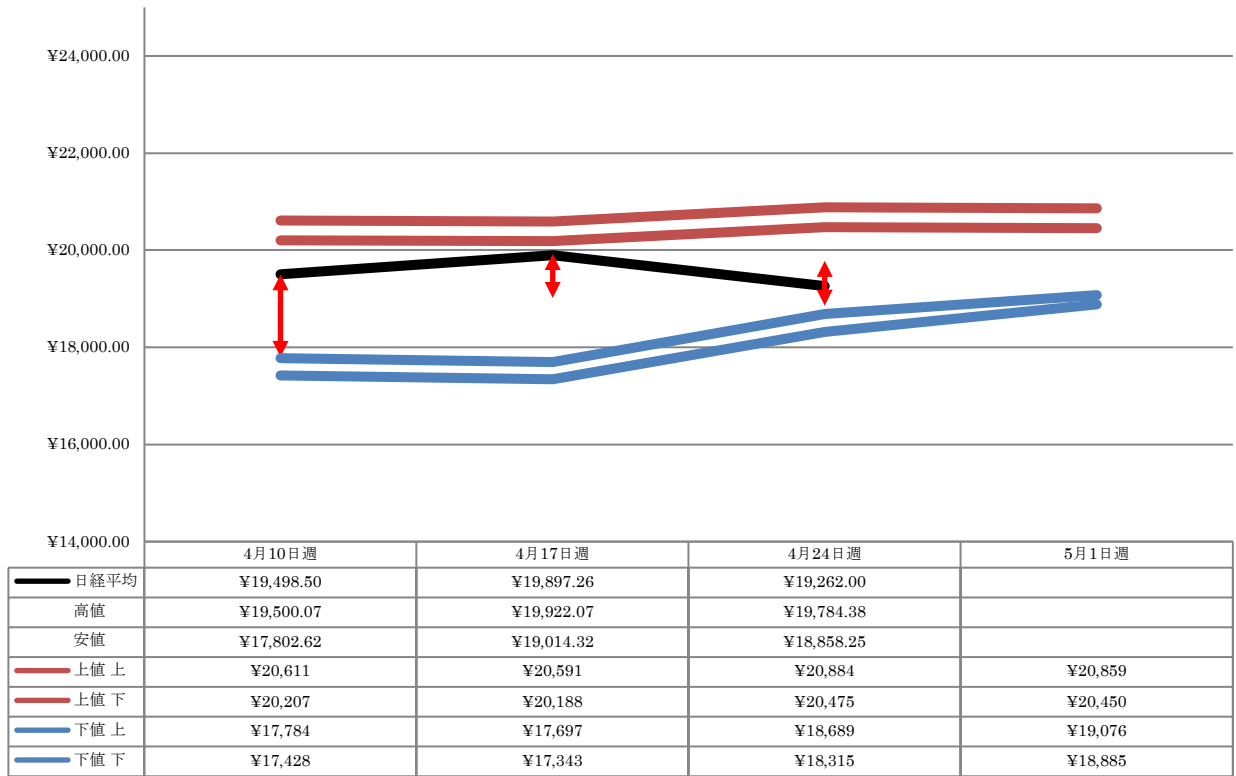
<ユーロ円>

上値メモ 117.19 円～118.36 円 (+1%かい離)

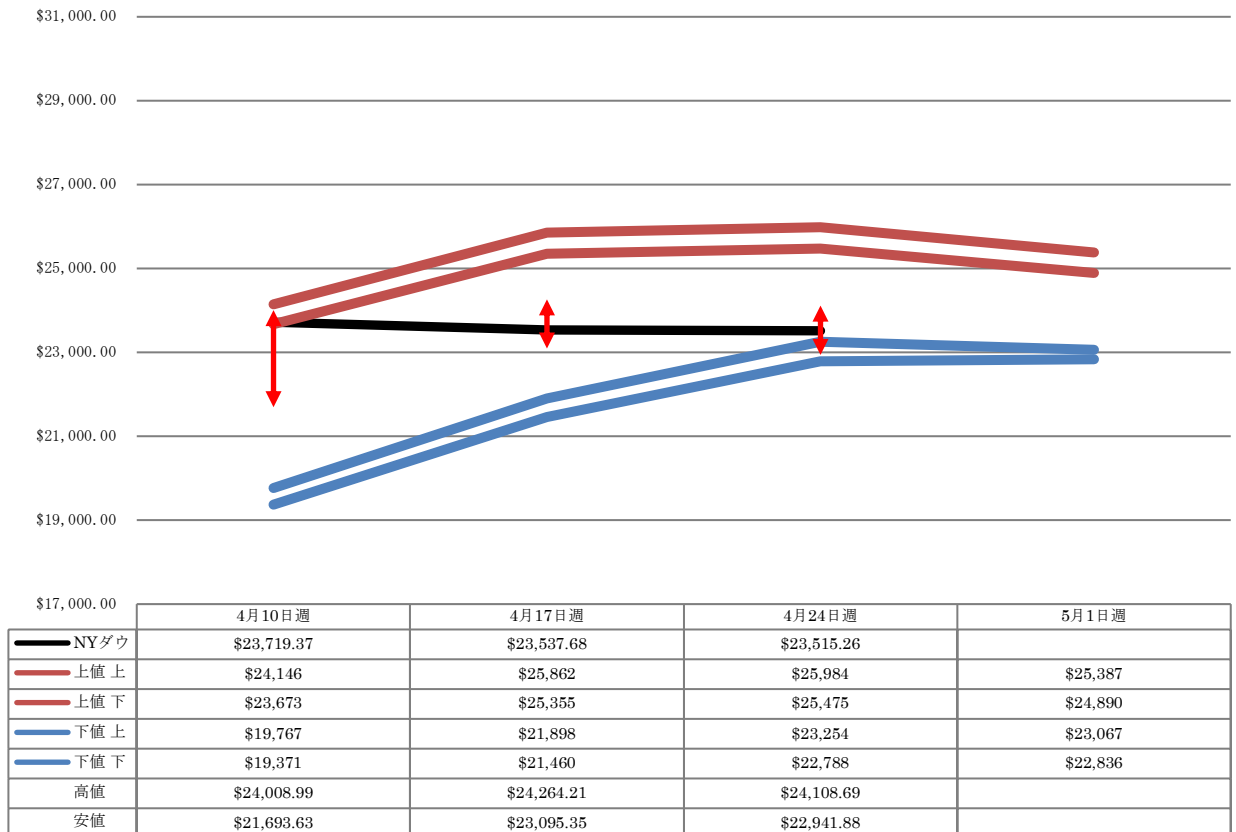
下値メモ 115.16 円～114.00 円 (-1%かい離)



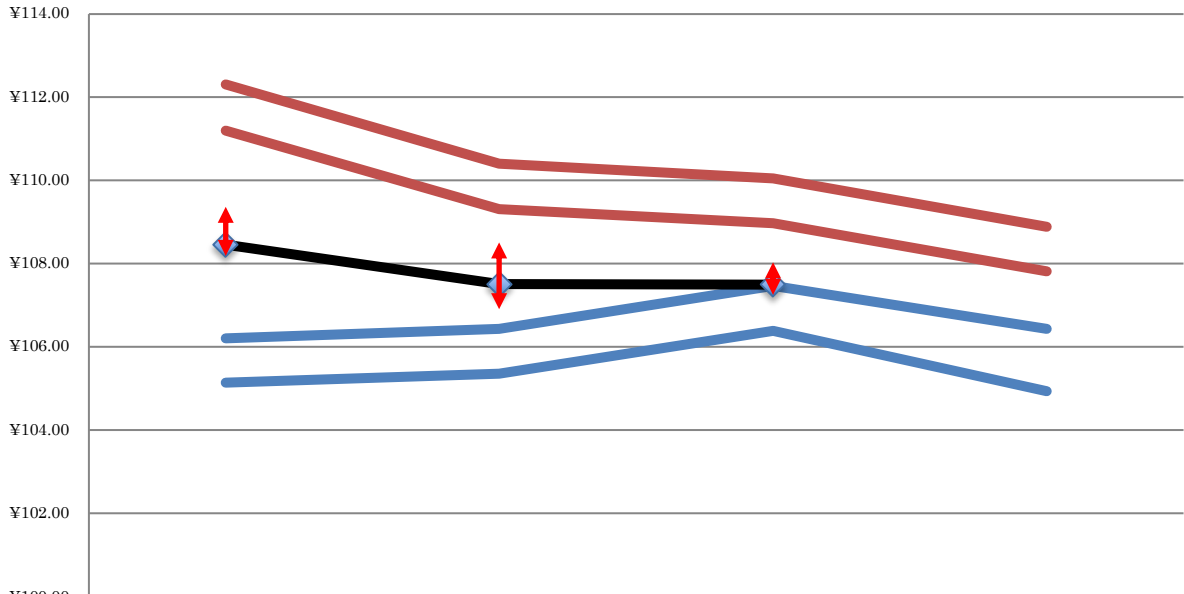
### 日経平均



### NYダウ

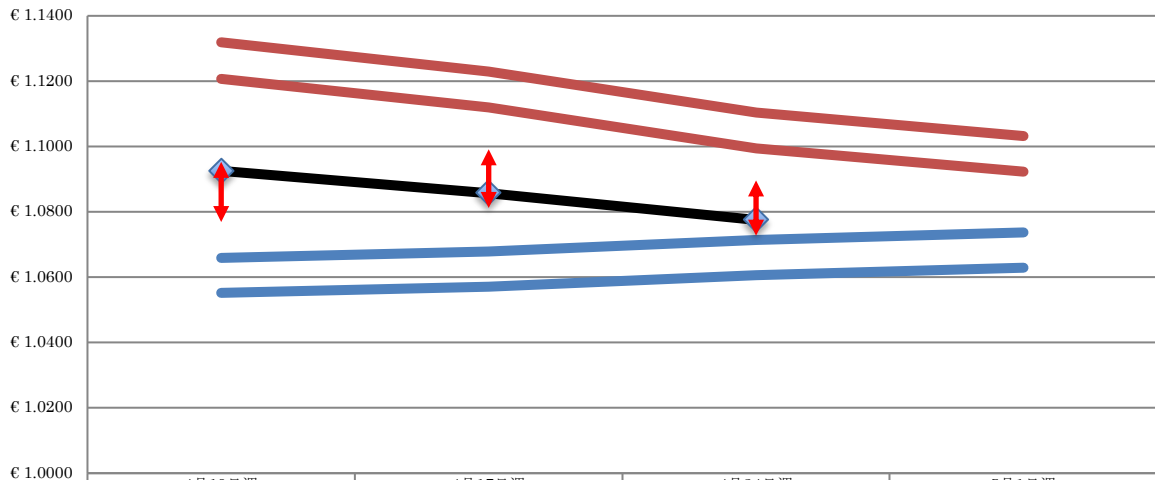


### ドル円



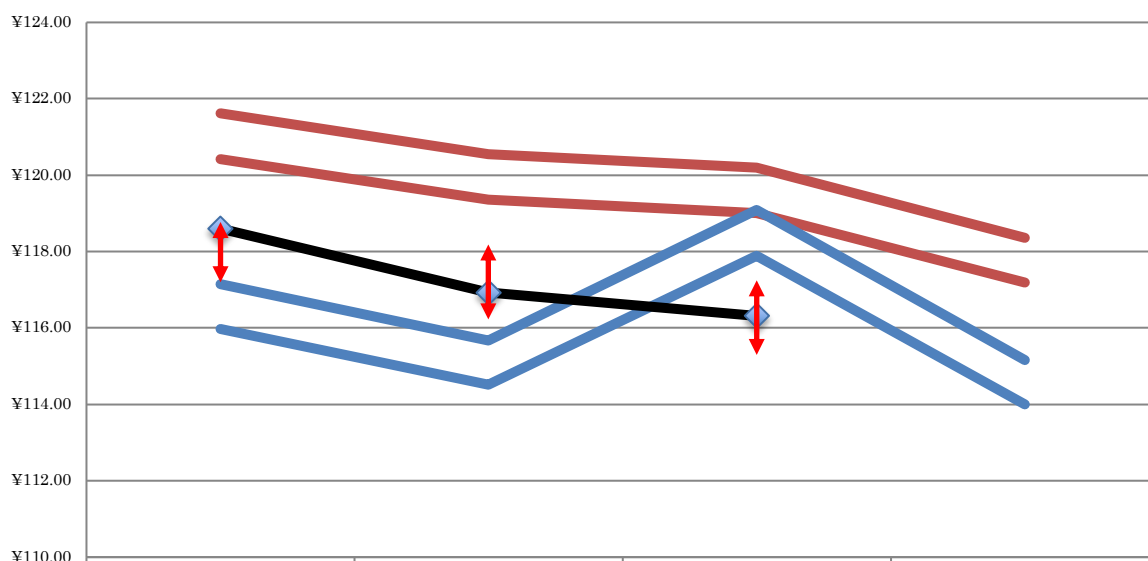
	4月10日週	4月17日週	4月24日週	5月1日週
上値 上	¥112.31	¥110.41	¥110.06	108.89
上値 下	¥111.20	¥109.32	¥108.98	107.82
下値 上	¥106.21	¥106.43	¥107.47	106.43
下値 下	¥105.14	¥105.36	¥106.39	104.94
ドル円	¥108.46	¥107.51	¥107.50	
高値	¥109.37	¥108.52	¥108.03	
安値	¥108.19	¥106.91	¥107.26	

### ドルユーロ



	4月10日週	4月17日週	4月24日週	5月1日週
上値 上	€ 1.1319	€ 1.1230	€ 1.1103	€ 1.1032
上値 下	€ 1.1207	€ 1.1119	€ 1.0994	€ 1.0923
下値 上	€ 1.0659	€ 1.0678	€ 1.0714	€ 1.0737
下値 下	€ 1.0552	€ 1.0571	€ 1.0606	€ 1.0629
ドルユーロ	€ 1.0925	€ 1.0858	€ 1.0775	
高値	€ 1.0954	€ 1.0992	€ 1.0897	
安値	€ 1.0769	€ 1.0812	€ 1.0727	

## ユーロ円

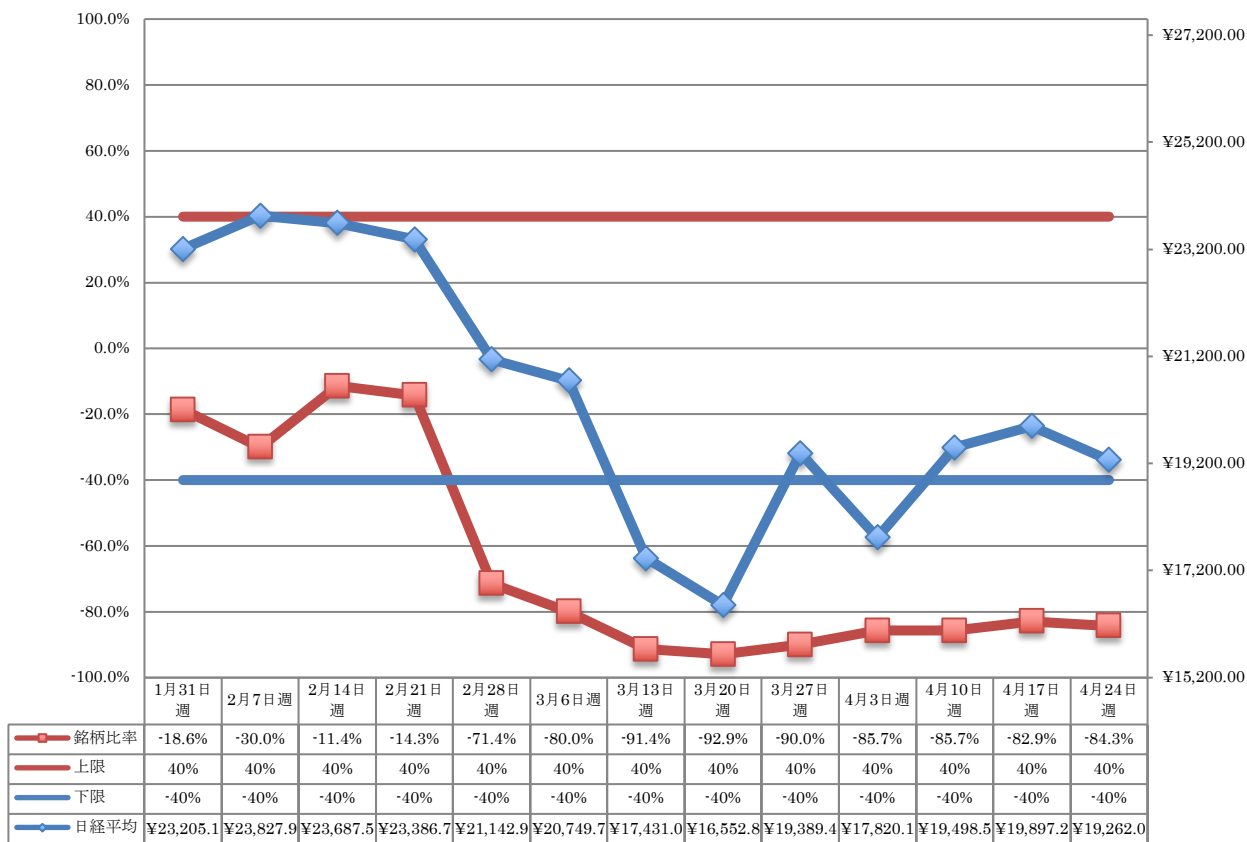


	4月10日週	4月17日週	4月24日週	5月1日週
上値上	¥121.62	¥120.55	¥120.20	¥118.36
上値下	¥120.42	¥119.36	¥119.01	¥117.19
下値上	¥117.15	¥115.68	¥119.09	¥115.16
下値下	¥115.97	¥114.52	¥117.89	¥114.00
ドルユーロ	¥118.60	¥116.93	¥116.32	
高値	¥118.77	¥118.18	¥117.25	
安値	¥117.20	¥116.22	¥115.29	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%と推移→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%→4月17日週-82.9%→4月24日週-84.3%と13週連続マイナス圏、かつ19年5月13日週～6月10日週以来となる下限ゾーンの-40%超に9週連続で陥っています。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来で、特に、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めて。そのような稀な3週連続-90%超を記録していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。僅かながらですが4週連続で-80%台にマイナス幅が縮小してることで底入れの兆しが出てきていますが、本格的な反発は-40%を割り込んでからとなりそうです。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。